



「小さな親切」運動の中でも屈指の規模を誇る静岡県本部。この度、5代目の県代表に、柴田久氏（静岡銀行頭取）が就任されました。柴田久県代表と運動本部の梅森徹理事（一般社団法人全国地方銀行協会常務理事）とは、旧知の間柄ということ、静岡銀行と静岡県本部の活動について、対談していただきました。

「不易流行」を心に刻む

梅森徹理事（以下梅森）：柴田さんは、全国地方銀行協会で親しくさせて頂いていただいています。今日は少し雰囲気の違いですが、どうぞよろしくお願いたします。

柴田久頭取（以下柴田）：こちらこそ、よろしくお願いたします。梅森さんと知り合って、2年くらいになりますね。「小さな親切」運動の理事をされていることは、存じあげていませんでした。

梅森：いや、私も静岡が最大の会員数を誇る県本部だと知りながら、改めてお礼を申し上げる機会がなく、失礼しました。静岡県には、親切的

方が多いようですね。

柴田：会員企業の皆さんが、本当に熱心に取り組んでいただいているのは間違いありません。

私もクリーン大作戦などに参加しますが、休みの日にもかかわらず、朝早くから地元企業の社長さんが率先して参加されて、従業員の方と一緒に清掃活動をされているところを何度も見えています。活動の意義をよくご存知なのだと思います。

梅森：この春、柴田さんが静岡県本部の代表になってくださいました。本業とあわせて、どんな柴田カラーを出していけるか、とても楽しみにしています。

柴田：本業の方では、よく言われる

言葉ですが「不易流行」を意識しています。時が経っても不変の本質を忘れることなく、しかし、時代にあわせた変化も取り入れていくということですね。

地方銀行の本質というのは、地域の企業を大切にしてサポートを惜しまないことだと思います。しかし、やり方は変化しなければ、最先端のサービスを提供できません。

梅森：おっしゃる通りですね。実は私も大好きな言葉です。具体的にはどのような取り組みが考えられますか。

柴田：例えば、高齢化社会に対応する取り組みですね。静岡県内の多く

県本部代表に聞く

「小さな親切」運動と銀行の大いなる接点

の企業の社長さんも、60代以上が多くなってきました。そうすると心配なのが事業承継です。

梅森：全国的に事業承継がうまくいかず、優良企業が廃業になる、黒字経営なのに廃業になるという事例が少なくないようですね。どの地方銀行にとっても重要な課題だと思います。ことが一企業では終わりませんからね。

柴田：ええ。従業員の雇用など、地域経済にも影響してきますよね。

梅森：企業にも、従業員にも、地域にも損失となりますね。
柴田：ですから、そこを手厚くサポートするために、個人の相続は個人部、法人の事業承継は法人部と分けていた対応を、「ソリューション営業部」という新たな部署を作って、一体で行えるようにしました。

お客様から、銀行の役割は単なる事務手続きとみられていた点もありますので、もっと広い視野からご提案をしていかなければならないと思っています。お客様のことを真摯

に考えて、重点的に取り組みたいと思っています。

梅森：なるほど。「後継者はおられませんか」というのは、なかなか踏み込みにくい話題ですが、時代的には必要ですね。

小さなことこそ 丁寧に 当たり前のことこそ 真剣に

梅森：「小さな親切」運動については、どのようにお考えですか。

柴田：私が新入行員の頃、先輩から教わったのが「相手の立場になって行動する」ということでした。それが、私にとっては大切な指針となり、それを実践するようになりました。

これは、「小さな親切」運動にも通じることだと思っております。相手の立場になって考えることができなければ、その苦境や心情を察することができませんから、親切にしようがないでしょう。

ですから「小さな親切」運動は、「不易流行」を支えてくれるものだと思います。

梅森：今、運動本部は「日本の美風の蘇生と新生」をテーマに活動をしているのですが、「不易流行」とも重なりますね。静岡県の運動が盛んな背景については、どうお考えですか。
柴田：静岡県本部は平成9年の発足で、全国で35番目と決して早いスタートではありませんでした。

しかし、会員企業の皆さんのご理解とご協力のおかげで、年々規模を拡大しています。昨年度は、クリーン大作戦や里山づくりなど環境美化・保全活動には、延べ1万人が参加していただきました。そして「小さな親切」実行章が112件、作文コンクールは191校の協力を得て、6334点の作品が集まりました。

相手を思いやる心を、子どもたちに

「小さな親切」運動静岡県本部代表

柴田
しば た

久氏
ひさし

公益社団法人「小さな親切」運動本部理事

梅森徹氏
うめ もり とおる



「小さな親切」運動と 銀行の大いなる接点



伝えていかななくてはなりませんので、
今後力を入れていきたいと思いま
す。
梅森…やはり、今の子どもたちをこ
覧になって心配になりますか。
柴田…なりますね。自分の子どもを
見ても、相手の立場になって考える
姿勢が失われつつあるように感じま
す。親にも先生にも、友だちにも、
自分の発言や態度が、相手にどん
な風に受け止められるかを考えて行
動する必要があるでしょう。



梅森 徹 [一般社団法人全国地方銀行協会常務理事]
昭和35年、広島県生。東京大学法学部卒。昭和58年、日本銀行入行。企画局審議役、発券局長、名古屋支店長を歴任し、平成28年(一社)全国地方銀行協会常務理事に就任。同年、(公社)「小さな親切」運動本部理事に就任、現在に至る。

柴田 久 [静岡銀行頭取]
昭和38年、静岡県生。慶応義塾大学商学部卒。昭和61年、静岡銀行入行。経営企画部長や執行役員呉服町支店長、常務執行役員首都圏カンパニー長兼東京営業部長、取締役常務執行役員を歴任し、平成29年、頭取に就任。平成30年、「小さな親切」運動静岡県本部代表に就任、現在に至る。

梅森さんはいかがですか。

梅森…子どもたちには、周囲への感謝の気持ちを持ってほしいなと思います。自分は発展途上、未熟であっても、親や先生はもちろん、友だちも含めて周りの人に育てられているという感謝の気持ちを忘れないで欲しいですね。それは、コミュニケーション能力を身に付ける上でも重要だと思います。

柴田…本当ですね。そういう意味で、「小さな親切」実行章や作文コンクールはいい企画だと思います。ほめてもらうためとか、目立つことをするとかではなく、小さなことでも見ている人がいることに気付きますし、人を見る目も養えますから。

それで思い出しました。
梅森…なんでしょう。

柴田…私は、頭取になるずっと前からパソコンにポスティブを貼っています。それには、手書きで、「小さなことこそ丁寧に。当たり前のことこそ真剣に」と書いてあります。人間はどうしても、小さなことはいい加減にしがちですし、当たり前のことはおざなりにしがちです。でも、人から見たら違うかもしれない。銀行は、ささいなことでも信用を失う可能

梅森…私も歩くのは好きですが、そういう視点があるとさらに楽しいでしょうね。

柴田…本当に面白いですよ。少し前のことになりましたが、東京の東急池上線にある「御嶽山」という駅のそばの八百屋さんが大繁盛していると聞いて、見に行ったことがありました。通りをはさんで向かい側には、大きなスーパーがあるのです。ところが、店主はしっかりと差別化しているんですよ。鮮度や品揃えがまったく違うんです。一度でも食べれば違いはすぐにわかります。だからその八百屋さんの商品は、早々に全

性のある仕事ですから、それをいつでも見えるところに貼っているのです。これも「小さな親切」に通じませんか。

梅森…神は細部に宿ると言いますが、まさにそれを実践されていますね。

柴田…そんな大層なことではないのですが、未熟なことは自覚していますので戒めます。

街を歩いて 見聞を広める

梅森…では、最後に柴田さんの趣味を伺ってよろしいでしょうか。

柴田…趣味と言えるかどうかかわかりませんが、歩くのが好きです。街を歩いていますと、いろいろなことが見えてきます。

私は中小企業診断士の資格を持っているのですが、お店に入ると、その店主が何を主張したくて、何を売ろうしているか伝わってくるんです。それで棚割やレイアウトなどを見て楽しんでいきます。

新しいタイプのお店ができるとうとう確かめたくありませんね。

売り切れ。スーパーの集客力をそのまま利用しているとも言えます。立地とか規模だけではなく、戦略次第で対抗できるんですね。

梅森…面白いですね。そうやって足で稼いだ見聞が、知識になって仕事にも役立つわけですね。やはり「神は細部に宿る」を体現されているらっしゃる。これからの静岡銀行のご発展と、静岡県本部の活躍は間違いのないと感じました。

柴田…ありがとうございます。精一杯頑張りたいと思います。

梅森…今日は貴重なお話と楽しい時間をありがとうございました。

静岡県の 「小さな親切」 運動

静岡県本部は、
独自の活動で県内の思いやりの心を育て、
豊かな自然環境を守る活動に力を入れてきました。
主な活動をご紹介します。

[発足] 平成9(1997)年2月20日
[会員] 27,741先(平成30年3月1日現在)

思いやりの心を広めます

●「小さな親切」実行章の推薦と贈呈
学校や会員企業・福祉施設等に広く推薦を呼びかけ、親切さんを発掘し実行章を贈呈。地域にあたたかな思いやりの輪を広げている。

子どもたちの豊かな心を育てます

●作文コンクール
作文コンクールを主催し、応募数は全国でも1、2を争う。入賞作品は、本人が朗読し、SBSラジオにて紹介している。

●あいさつ運動
毎年、「あいさつ運動協力校」を指定し、のぼりとスローガン入りの横断幕を寄贈し、小中学校のあいさつ運動を支援している。



豊かな自然、美しい街を次世代へ

●日本列島クリーン大作戦
「河川海岸美化運動」「ごみゼロ作戦」「富士山一斉清掃活動」へ参加するほか、県内各地で清掃活動を実施。

●里山づくり・森林整備活動
県環境ふれあい課や関連団体と連携し、豊かな里山を次世代に残す為、森林の下草刈りや植樹活動を行っている。



●棚田保全活動
棚田の景観を守るため県内2地区の棚田オーナーとなり、田植えと稲刈りを行っている。収穫した稲は福祉施設へ寄贈。